

JASCT

ニューズレター

第6巻第4号

昭和62年(1987年)11月

発行人：松本清一

印刷所：絢文社

理事会からのお知らせ

第8回 日本性科学会の予告

日 時 昭和63年7月10日
開催場所 東京・野口記念館
テ ー マ 「性器疾患のInformed Consent(告知了解)」
— いわゆるムンテラの科学的検討 —

不妊症，性病，不感症，インポテンツ等婦人科，精神科，心療内科等各科にわたる25の代表的性疾患について各専門の演者による講演

- (1) 具体的ムンテラの言語表現
疾病の内容，患者の心理社会的因子により如何に話の内容をmodifyするか。
- (2) 患者の理解度，疾病の転帰，Informed Consent，Compliance等の立場からムンテラの内容を解析

特 別 講 演

欧米諸国の思春期対策

JASCT会長 松本清一

一般演題テーマ：性器疾患に関する私のムンテラ

募 集：昭和63年3月より63年4月末日まで，多数ご応募下さい。

演題送付先：JASCT事務局 〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3階
長谷クリニック内 TEL 03-475-1780

日本性科学会はJASCT会員に限定したものではありません。一般演題も非会員から多数応募されています。会員，非会員を問わず広く御参加されますようお願いいたします。
なお，御不明な点がございましたら，JASCT事務局までお問い合わせ下さい。

J A S C T 会 長 松 本 清 一

第8回日本性科学会会長 武 田 敏
千葉大学教育学部性教育学教授

Vol. 6

No.
4

JASCT事務局 長谷クリニック内 TEL03(475)1780

〒107 東京都港区青山1-1-1 新青山ビル西館3F

第18回インポテンス研究会印象記

昭和62年10月25日(日)にJASCT理事でいらしゃる河野友信博士(都立駒込病院心身医療科)が会長として持田製薬本社ルークホール(東京・四谷)において開催された。今回の主題は「加齢と性」であった。筆者はインポテンス研究会メンバーの一人であり、プログラムをすべて拝聴したので、その印象を記して現時点でのインポテンス研究の一端を紹介する。

一般演題は、陰茎の血管系 — 動脈, 海綿体洞, 静脈 — の形態的研究, 血液の inflow, outflow といった hemodynamics の研究, vasoactive drug の陰茎海綿体の反応を in vitro, in vivo の両面からの研究, に関する演題で、加齢との関連性で発表がなされていた。当然のことながら勃起は陰茎の海綿体組織への血液の充満によって生じるものであるから、こうした血流動態からみた研究が最近急速に進歩しており、その機能が障害されたインポテンスを血管性インポテンスと呼ばれて、調べてみるとインポテンス原因のトップを占めるという論文も少なくない。

特別講演として「加齢とインポテンス」と題して札幌医大泌尿器科熊本悦明教授が講演された。多数例についての質問紙法による性機能の調査、夜間睡眠勃起現象を調べて勃起機能を客観的に調査した成績、などについて述べられた。質問紙法で調べると、性欲、勃起ともに加齢にしたがい低下しているのが明らかであり、射精はあまり変りがないというデータである。さらに興味あることはアメリカでの同じような研究結果と比較すると、20才代、30才代と比較的若いときは日米で差がないが、40才をすぎると明らかに日本の方が性機能の低下が顕著で、たとえば性交をもたないものはおよそ10才の開き、つまり日本人の方がアメリカ人より10才早く性の老化が進むという。夜間睡眠勃起現象を調べてみても、年齢とともに減弱する傾向にあり、60才以降では著明に減弱している。熊本教授は最後に性と生殖との分離の問題に触れ、高齢者の性は最近のライフスタイルの変化によって生殖の性でもなければ快楽の性でもない、人間として最小社会単位の男女ペア、すなわち夫婦の愛の表現であるという認識をもつべきであることを強調されたのが深く印象づけられた。

最後にアメリカ Mayo clinic の W. L. Furlow 教授が「Male erectile dysfunction: A new look at the diagnostic and therapeutic options」と題して招請講演された。現在アメリカには500万人のインポテンス患者がおり、とくに糖尿病だけで200万人が器質的インポテンスとなっているという。次いで血管性インポテンスで100万人以上、あとは医原性(手術など)、外傷性などが多かった。診断法については、多くの検査法を組み合わせることが必要であり、それによって原因が分けられる。すなわち、夜間睡眠勃起検査、人工勃起検査、海綿体造影、動脈造影、ババベリンテストなどについて述べられた。治療法については、陰茎プロテーゼが現在アメリカでは最も使用されている。現在11種類のプロテーゼが開発されているという。大別すると、① semi-rigid flexible or malleable rod, ② self-contained inflatable device ③ multi-component inflatable device である。静脈性インポテンスに対しては、陰茎背静脈の結紮がしばしばおこなわれる。動脈性インポテンスに対しては、血行再建手術 — たとえば陰茎深背静脈を下腹壁動脈と吻合して動脈化する、下腹壁動脈と陰部動脈とを吻合する、下腹壁動脈を陰茎海綿体に吻合する、などである。血管作動薬の陰茎海綿体注射は、アメリカではかなり広まった治療法であるとしながらも、対象を選択し、注意深くコントロールされなければならないといっている。

以上が研究会の講演内容について筆者なりの印象である。加齢とともに性機能が低下することは必然的な生理的現象として受けとめられている。しかし、これは個人差がきわめて大きく、河野会長が述べられたように、20才で週1回以下の性交しか有さないものもいれば、70才代でも週1回の性交を有するものもいる。これは個人的な生理的機能のバラツキもあるが、個人の属する社会環境にも依存する。さらに性機能は脳の働きが大きく関与する。熊本教授の講演のなかにも30才代の性欲や勃起には家庭的ストレスが、40才代のそれには職場のストレスが関係するようなデータが示されたことは興味深い。人間の性機能の複雑さから多方面からの解析が必要となるものと思われる。

(長田 尚夫 記)

Sexology こと始め(第4回)

医学博士 石 濱 淳 美

映画におけるセックスこと始めは、昭和21年5月23日上映の松竹映画「はたちの青春」と、続いて上映された大映の「ある夜の接吻」である。

はたちの青春では、大阪志郎と幾野道子(共に現役)のキッスシーンが大評判となった。二人の唇が一瞬わずかに触れた瞬間、観客はいっせいにオーッという一種異様なうなり声を発し、その後はクスクス笑い出すという現象がみられた。

つまりわが国では、キッスというものが照れ臭かったものと思われる。この時二人は、お互に唇をアルコールで消毒して、キッスシーンにのぞんだといわれている。

現在のテレビ映画における、大岡越前の「同心源さん」からは、全く想像することも出来ない。

当時わが国の演劇人は、舞台の上や映画の中でキッスなどしたこともなく、そのため当時「接吻指導パーティー」なるものが開催された。すなわち、昭和25年8月18日東京目黒の雅叙園に、GHQ肝入りで映画俳優が集められ、「接吻講習会」なるものが開かれた。日本の新進、中堅スター達が、GHQ推薦のハリウッドスターと称する男女と、お互にキッスを演じるようになった。しかし後で判明したところによると、この米国人スター達は、いずれもGHQ高官の愛人達であったと云われている。

昭和21年の接吻映画について、性愛をテーマにした本格的セックス映画第1号は、かの有名な黒沢明監督が作った、昭和23年の「情欲」(別名強盗)である。この筋は復員した中年男が押し込み強盗を働き、留守番の女学生を裸にして犯すというもので、今ならなんのたわいもないものである。強盗におびえた女学生の顔に、しだいに恍惚とした表情が現われるところがクローズ・アップされるというもので、その当時としては大変なものであった。

おなじく黒沢明は、昭和26年にも「風立ちぬ」というセックス映画を作っている。この映画はわが国セックス映画の傑作といわれている。この映画の舞台は水郷潮来で、セックス場面はすべて水面に映った、幻想的畫面で表現された。水面を通して映し出されたので、それ以来ブルーフィルムというのかと思ってしらべたが、語源は不明であった。

先日JASCTの仙台学会の際、特別講演に来られた小野常德氏に尋ねたら、正確な語源はやはり不明の由。1830年代からエッチのことをblue jokeといったり、売春婦が好む色がブルーであるとか、フランスで好色本のことをla bibliothèque de blues というところからきているのではないかと、現在諸説紛々としていて不明である。

それはさておきわが国のセックス映画は、ブルーフィルムからピンク映画そしてポルノ映画へと次第にエスカレートして行くのである。そこで昭和24年6月には、「映画倫理委員会」いわゆる「映倫」なるものが出来た。当局に上映禁止を受ける前に、自主規制しようというものである。

この映倫のセックス・チェックにひっかかった第1号は、昭和25年の「東京十夜」である。この映画には「チャタレー夫人の夜の生態」という副題がつき、要するに全巻ベツトシーンであった。カットされた箇所が34箇所もあり、残った部分より長かったという珍らしい映画である。この映倫のセックス・チェックの抜け穴として、「バスコン映画」というのが作られた。バスコンすなわち産制映画のことである。

人口抑制の国策により、政府奨励の形で作られた。「堕胎か避妊か」とか「美しき本能」といった、外陰丸出し、性交描写やお産場面である映画が、厚生省推薦マーク入り科学映画として上映された。しかしこの映画は、直営館でない場末の映画館で、「映画館でみられない映画」として上映された。そうした映画館では、身動きも出来ない程スジ詰めにした、ハメ板が壊れて下を流れるドブ川に足を取られながら、観客は映画にみとれたといわれている。

このバスコン映画について、いわゆる「成人映画」というものが登場する。その成人映画指定第1号は、昭和30年5月上映の東宝映画「若夫婦なやまし日記」である。これ以来未成年者入場お断りの、「成人映画」が続々と登場する。

芸術かわいせつかで裁判になった、本格的性愛映画は、武智鉄二の「白日夢」「黒い雪」および昭和51年10月の大島渚監督、日仏合作映画「愛のコリーダ」である。「愛のコリーダ」は、阿部定事件の映画化で、わが国では脚本スチールの時点で映倫にカットされた。しかし名監督の編集だけに、映画をみた男女は興奮して、その晩多くのものが性交を行ったといわれている。

フランスではセックス解禁でノー・カットのため、それを見んものと、日本からツアーが組まれたといわれている。

〔学会のお知らせ〕 出席、発表などに関する詳細はJASCT事務局にお問い合わせ下さい。

性科学研究会 (The Society for the Scientific Study of Sex)

1988 Easter Regim Annual Meeting

期 間 1988年4月22日～24日

場 所 アメリカ バルチモア Sheraton Inner Harbor

テ ー マ “Who listens to whom?”

Sexology and social policy

An Interdisciplinary approach

演題〆切 1987年11月30日

事務局からのお知らせ

先にお配りいたしましたJASCT会員名簿・昭和62年度版に、下記のように変更・誤りがありました。
お詫びいたします。お手数ですがお手持ちの名簿の該当箇所を訂正ください。

インポテンス治療器具「コレクト・エイド」のご案内とあっせん

米国において開発、普及し、去る6月の西独ハイデルベルグ市において開催された第8回世界性科学会議に展示されておりましたインポテンス患者のための勃起機能補助装置『コレクターエイド』がわが国でも輸入・販売されることになりました。

購入ご希望の方は、下記要領によりあっせんの取扱をいたしますので、JASCT事務局にお申し出ください。

記

- | | |
|----------|---------------------|
| 1. 製 品 名 | コレクターエイド勃起機能補助装置 |
| | (製 造 元) 米国サイネルジスト社 |
| | (販 売 元) (株) ジェイ・タジマ |
| | (販売取扱) 新医学普及協会 |
| 2. 価 格 | あっせん価格 1セット 51,300円 |
| | (定価 1セット 57,000円) |

注、患者さんには定価でお頒ちください。